



2023

CSR Report

Corporate Social Responsibility

CONTENTS

トップメッセージ	01	従業員	
会社概要	02	雇用促進	12
事業紹介	03	安全衛生・労使関係	13
ステークホルダーエンゲージメント	06	人材育成	15
ビジネスモデル	06	環境	
環境配慮商品	07	環境マネジメント	16
お客様		環境パフォーマンスデータ	20
生産能力強化	08	事業活動と環境影響	21
お役立ち活動	08	調達	24
アフターサービス	10	社会貢献活動	24
商品リサイクル	10	コンプライアンス	25
品質マネジメント	10	コーポレートガバナンス	26

トップメッセージ



株式会社トランテックス
代表取締役社長

森 茂

お陰様で弊社は今年度創業115周年を迎えました。これもひとえに全てのステークホルダーの皆様のご支援の賜物であり心より感謝申し上げます。

さて、弊社におきましても3年以上にわたり制約の多いコロナ禍での事業活動を強いられてまいりましたが、本年5月に新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後は徐々に正常化し、コロナ禍で中断を余儀なくされたお客様の来社による実車検収や工場見学、仕入先様との来社による打合せ、学生や各種団体様の工場見学の受入れや本社・工場での地域懇談会の開催、従業員による工場周辺のボランティア清掃の再開など、ようやくポストコロナ時代の明るい未来を切り開くフェーズに入ったと考えています。そして、この明るい未来の実現には自動車産業に求められるSDGsにつながる積極的な取組みが欠かせません。弊社はSDGsの17ゴールのうち、13の「気候変動に具体的な対策を」、7の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、12の「つくる責任つかう責任」、6「安全な水とトイレを世界中に」などを中心に自動車産業として大きく関わっている取り組み目標を意識し、カーボンニュートラル、廃棄物および水使用量の削減に向けた活動を引続き行っていきます。カーボンニュートラルは特に大きなテーマで、再生可能エネルギー由来の電気の導入を継続しながら、使用するエネルギー使用量の低減を進めるため、古河工場を加えた生産2拠点化を最大限に活かし、これまで以上に生産効率化に向けて知恵を絞っていかねばいけません。また、積載効率や作業効率がよく環境に配慮した商品を開発し、お客様のカーボンニュートラルにも微力ながらも貢献できればと思っております。更には、国内で約550万人が関わる産業の一員として、自動車産業の健全な発展には8の「働きがいも経済成長も」の目標達成も欠かせないゴールであることを意識し、高齢者や障害者の雇用、そして期間従業員の正社員登用も積極的に行っていきます。そしてこのような取り組みの推進のためにも、弊社は引き続き「安全」と「コンプライアンス」の強化に注力します。即ち、ゼロ災の実現に向けて「安全は全てに優先する」ことに徹底的にこだわって、本社工場や古河工場の生産ラインはもちろん、事務部門や全国の営業・サービス拠点に至るまで全社で安全活動を愚直に推進してまいります。また、コンプライアンスの向上を目指して、全てのハラスメントを防止するため社員教育を一層充実させて、ハラスメントの予防、防止の意識を高め、風通しのよい職場づくりを推進し、働きがいを実感できる企業風土の実現を目指してまいります。そして、アルミボデーNo1企業を目指して、弊社製品を信頼頂いているお客様の元へ1日でも早く1台でも多く、高品質で高付加価値のトラックボデーをお届けできるよう引き続き全社を挙げて精励してまいります。

弊社は100年企業として、これから先も歴史を積み重ね、地域に愛され、そして全てのステークホルダーの皆様から信頼され、必要とされる企業であり続けるよう全力を傾注してまいりますので、今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

事業紹介

大・中・小型のトラックボデーを開発・設計・製造・販売し、アフターサービスとしてリニューアル工事や部品販売を行っています。

トラックボデー生産

■大型車シリーズ

長距離、大量輸送に欠かせない大型シリーズです。積載量重視型、容積重視型、専用輸送型など、おすすめ仕様のほか、用途に合わせた最適ボデーをご提案いたします。

ドライバン



ハイスター・バン (ハイスライダー付)

冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

ドライウイング



ハイウイングMAX

冷凍機付ウイング



ハイウイングMAXクール (冷凍機付)

冷凍ウイング



ハイウイング・コールド“S”

幌ウイング



ワンタッチ幌 (手動式)

ブロック煽り



ハイブロック

■ 中型車シリーズ

配送から長距離輸送まで、あらゆるシーンで活躍する中型車シリーズです。軽量タイプや、おすすめ仕様のほか、用途に合わせたボデーをご提案いたします。

ドライバン



ハイスター・バン

冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍 (床下格納式リフター付)

冷凍機付ウイング



ハイウイングMAXクール (冷凍機付)

ドライウイング



ハイウイングMAX

幌ウイング



ワンタッチ幌 (手動式)

ブロック煽り



ハイブロック

■小型車シリーズ

市街区の集配から中・近距離輸送に最適、機敏な小型車シリーズです。

ドライバン



ハイスター・バン

フラットパネル冷凍バン



ハイスター・冷凍

ドライウイング



ハイウイングMAX

ブロック煽り



ハイブロック

リニューアル・部品販売

ボデーの載せ替え、キャブ・ボデー塗装、リヤ扉外板張替え、デザイン文字製作等や修理・ドレスアップ用の部品販売を行っています。

■ドレスアップ部品の一例

【アルミ製及びステンレス製サイドガード】



アルミ角パイプ型



ステンレス丸パイプ型



ステンレス角パイプ型

【煽り中間部ウイングロック】



オールステンレス製



BOX本体のみ
ステンレス製

ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーとの関わり

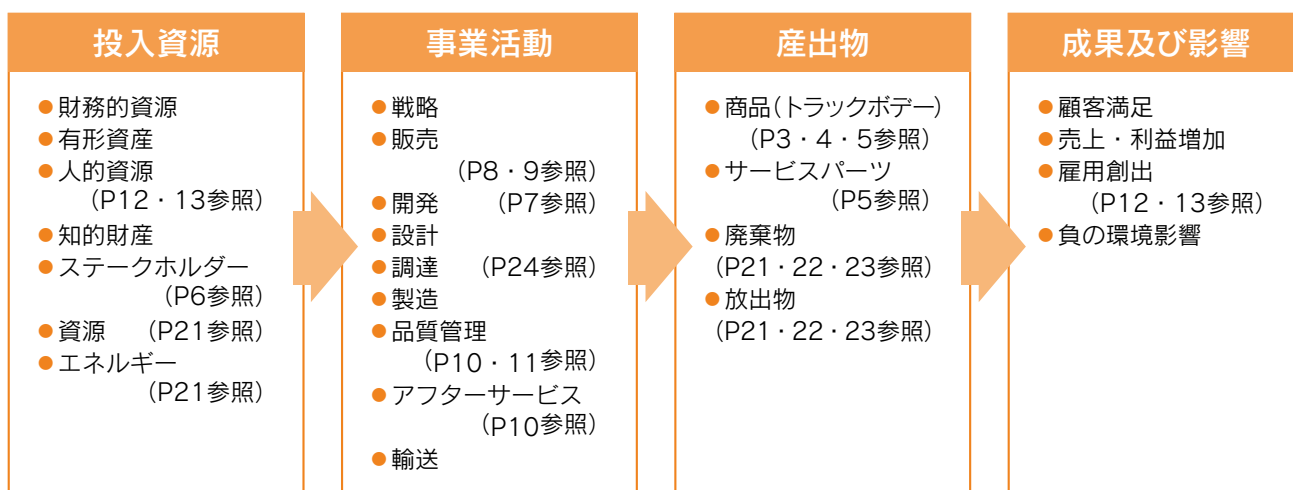
当社はお客様、仕入先様、従業員、地域社会を重要なステークホルダーと位置づけ、それぞれと良好な関係を維持することが安定的・持続的な成長には不可欠であると認識し、担当部署を中心に積極的なコミュニケーションを図っています。

ステークホルダー	重要な課題	コミュニケーション手段	参照頁
お客様	環境配慮商品の提供、お客様に役立つ情報提供、品質保証、迅速な対応とサポート	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の営業活動 ● お役立ち活動メニューの提供 ● 定期訪問 	P7・8 9・10・11
仕入先様	より良いパートナーシップに向けた適時・適切な情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ● 仕入先会議 (毎月) ● 仕入先総会 (年1回) 	P24
従業員	労働安全衛生の推進、人材の積極採用・育成、処遇改善、コンプライアンス	<ul style="list-style-type: none"> ● 社内報 ● 研修、教育 ● 安全衛生委員会 ● 相談窓口 	P12・13 14・15・25
地域社会	環境保全、社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域懇談会 (年1回) ● ボランティア清掃 (原則毎月)、海岸清掃 (年1回) 	P24

ビジネスモデル

ビジネスモデルの概要

下図は当社のビジネスモデルの概要について「投入資源」・「事業活動」・「産出物」・「成果及び影響」に分けて表現したものです。当社は持続的に価値を産み出す仕組みを維持・改善し、基本理念に掲げる「地球環境に配慮し、輸送文化を創造し、未来社会に貢献する」「お客様に信頼され、頼れるパートナーとして輸送・物流をリードする」企業を目指していきます。



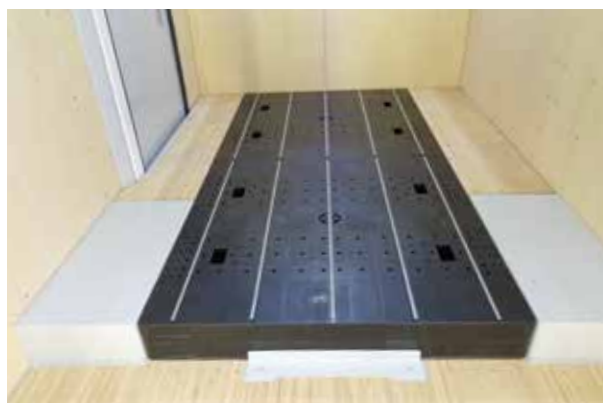
環境配慮商品

環境配慮商品の開発

当社では環境に配慮した商品として高積載を実現しているダブル連結トラックや低燃費を実現している空力改善ボデーを提供しています。

■小型電動キャブ付きシャシ用リヤボデー開発

各業界でカーボンニュートラルに向けた取組みが行われる中、運輸部門のCO2排出量の約4割を占める商用車のカーボンニュートラル化に向けて電動車の開発・普及が進められており、当社も小型電動キャブ付きシャシ用のリヤボデー開発をすることでその一助を担わせていただいております。今回のリヤボデー開発にあたりお客様のご要望をお聞きし、ウォークスルータイプのようなシャシの低床化による作業性重視ではなく、従来の2トン車のような床面フラット化や前壁構造とし、積載性重視のお客様のカーボンニュートラルに対応しております。

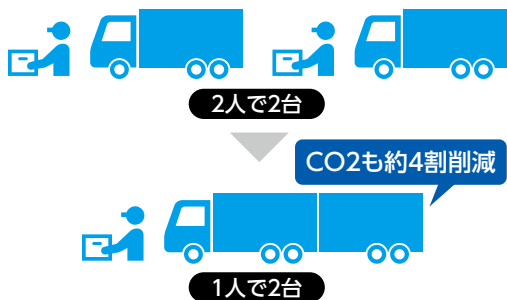


■ダブル連結トラック（フルトレーラー）

物流業界でもドライバー不足が問題となっており、また昨今の環境意識の高まりから物流段階でのCO2削減も課題として認識されています。このような背景から物流業界では1回の輸送でより多く運ぶことができるフルトレーラーの導入に向けた機運が高まり、試験段階を経て本格導入に向けて取り組みが進んでいます。試算によるとフルトレーラーはドライバー数の約5割削減と、燃料使用量（CO2発生量）の約4割削減となっており、現段階では使用路線は限られるものの普及によるメリットは大きいと言えます。当社では過去に前側のトラクター部分のみボデー架装を行っていましたが、今回後ろ側のトレーラー部分についても開発・設計・製造を行い、全長23.5mのダブル連結トラック（フルトレーラー）として市場投入しました。

より効率的に多くの荷物を運ぶ

乗務員2人で2台のトラックで運んでいた荷物を、
1人で2台分運ぶ。



お客様

生産能力強化

トランテックス古河工場は日野自動車古河工場の敷地内に2022年1月に立上げを行い、大・中型のVQウイング（メーカー完成車）の生産をしています。商品力強化のためボデーオプションを充実し、また同一敷地内で日野自動車が生産するシャシとの一貫生産により大幅なリードタイムの短縮を実現しており、お客様のご要望に一日でも早くお応えする体制ができあがりました。引き続き生産現場での改善活動を行い、高品質・短納期のモノづくりを進めていきます。



お役立ち活動

営業部門は本業であるボデー販売はもちろん、お客様の様々なご要望・お悩みにお応えし、お客様の本業の発展に少しでも貢献させていただきたいと考え、「お役立ち活動」を行なっています。「お役立ち活動」の一環で、お客様に当社の持つノウハウをご提供させていただく「お役立ちメニュー」は18種類をご用意させていただいております。

ウイングの取り扱いについて

◆メニューのねらいどころ

ウイング車の事故、修理でお悩みのお客様へご提案いたします。

◆内容

開閉操作や荷物の積み方など、ウイングをお使いになる際の基本的な注意点をご説明します。

◆実施要領

- ①受講対象者：トラック乗務員
- ②所要時間：20～30分
- ③場所：会議室等
- ④実施人数：数名から実施いたします。

◆効果

ボデーや積荷の損傷を防ぎ、安全安心な運行が可能となります。



(前ページ以外のお役立ちメニュー)

- 冷凍バンの取扱いについて
- 冷凍バンでの品質管理について
- ウイングへの安全な荷積みについて
- 荷卸し作業KYT
- リヤボデーお手入れ方法のご提案
- コンプライアンス講習
- 車輛後退時の安全確認講習
- 冷凍ボデーのメンテナンス
- ウイングボデーのメンテナンス
- トランテックス安全管理手法のご紹介
- トランテックス改善事例のご紹介
- 体調管理講習
- テールゲートの安全操作
- 冷凍車の商品知識
- ロールボックス輸送の注意点
- ラッシングベルト使用時の注意点
- 乗務員様マナー研修

【お役立ち活動実施事例のご紹介】

【関西営業所】

- 実施先：販売会社様
- 実施内容：・ウイングと格納ゲートの安全な操作方法およびメンテナンス
・ラッシングベルトの使い方
- 参加人数：20名
- 参加者の声
 - ・初めてウイングやゲートを操作し、使い方がわかった。
 - ・ゲート操作時の立ち位置やウイングを少し開けてののぞき込みなど、よく見かける操作の仕方が危険な作業だと気づかされた。
 - ・機器の寿命や安全作業にとって、メンテナンスの重要性を教わったので、お客様にも伝えていきたい。
 - ・わからない用語や部品についても詳しく教えてもらい、理解できた。



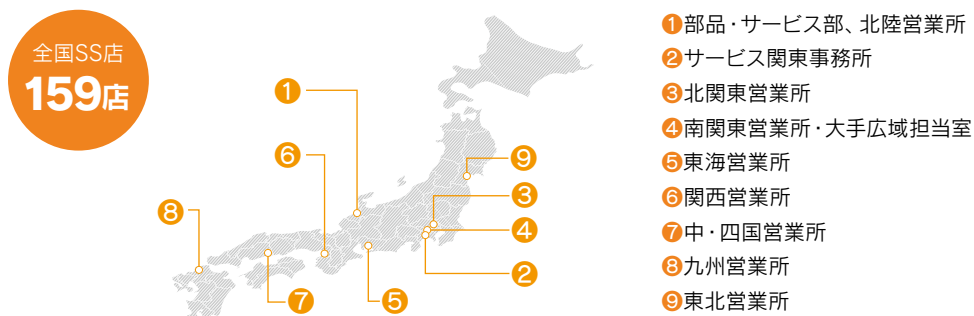
運行管理者等指導講習の実施

貨物自動車運送事業輸送安全規則第23、24条により運行管理者は2年に1回運行管理者一般講習（運行管理の業務を行うに必要な法令等の最新の知識を習得する事を目的にした講習）を受講する事が義務付けられています。当社はおお客様が必要とする講習を開催することで仕事のお役に立つ事ができるとの考えから、2018年(平成30年)11月末に国交省大臣認定を取得し、本社工場の会議室を会場として講習の開催を始めました。北陸3県のユーザー様を対象に毎年3回程度の頻度で土曜日に開催しています。ご興味・ご関心のある方は当社ホームページで開催日程等をご確認ください。

アフターサービス

アフターサービスNO.1を目指して

アフターサービス部門ではお客様に商品をお届けした後も、定期訪問状況や有事発生時の対応状況を数値化し、アフターサービスNO.1に向けて活動しています。また、お客様の身近な存在として全国の販売会社様および全国150を超えるSS店様と連携しながら、すばやく正確な修理を実施し、お客様にご満足いただけるアフターサービスを目指しております。

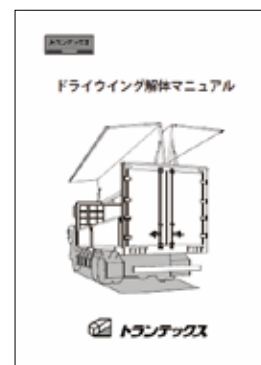


商品リサイクル

自動車リサイクル法の対象は乗用車・商用車(キャブ付シャシ)と一部の架装物となっています。当社の商品であるドライバン、保冷・冷凍バン、ウイングバン等はリサイクル法の対象外ですが、リサイクル処理ができるように一部の商品につきましては解体マニュアルを作成し当社ホームページで情報提供しています。

【解体マニュアル対象商品】

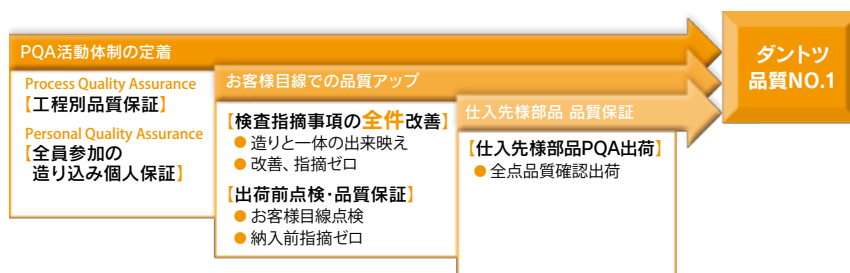
- ドライバン
- ドライウイング
- ウレタン注入発泡 保冷・冷凍バン
- ポリスチレン接着パネル 保冷・冷凍バン
- 冷凍ウイング
- 冷蔵ウイング
- 幌ウイング
- 平ボデー



品質マネジメント

品質管理活動方針

当社では①PQA活動体制の定着 ②お客様目線での品質アップ ③仕入先様部品品質保証の3点を具体的な取組み方針とした「ダントツ品質NO.1」を品質管理活動方針としています。



品質管理体制

工程別品質保証をベースに、毎日開催する稼働会議（※）でも品質課題について関係者全員で共有しています。また、月1回、全役員が参加する品質会議も開催し、重要品質問題の対応状況等について意見交換も実施しています。

（※）生産部門・生産管理部門・品質保証部門・開発部門の責任者が参加し、前日の生産状況を振り返り対応課題の明確化等を行う会議体。



ISO9001認証取得

当社ではお客様目線での品質確保に向けた活動を続けてきていますが、その一環として本社工場、山島工場、古河工場の3拠点についてISO9001の認証取得をしています。外部認証機関による審査を通じて日々の品質活動を客観的に評価いただき、そこで得た改善点をこれからの自分たちの品質活動の向上に活かし、お客様の満足につなげていきたいと思っています。

組織名 株式会社トランテックス

- ・事業所名 本社及び工場（石川県白山市徳丸町670番地）
対象業務 トラック車体の開発・設計・製造
- ・事業所名 山島工場（石川県白山市矢頃島町1025番地）
対象業務 完成車の出荷及び特装業務並びに事故車の修理点検
- ・事業所名 古河工場（茨城県古河市名崎1番地）
対象業務 トラック車体の製造

リコールへの取り組み

商品に問題が発生し、処置が必要と判断した場合には、お客様の安全と被害の拡大防止を最優先に部品交換、改修（点検、修理等）を迅速に実施しています。またリコール情報はトランテックスのホームページ上に開示しています。2022年度は1件リコール（左フロントフェンダフラップの不具合）が発生しました。

リコール件数

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
0件	3件	2件	1件	1件

改善対策件数

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
0件	0件	0件	0件	0件

サービスキャンペーン件数

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
0件	0件	0件	0件	0件

◆リコール

道路運送車両の保安基準に適合していない又は適合しなくなるおそれがある状態で、その原因が設計又は製作過程にあると認められるときに、自動車メーカー等が、保安基準に適合させるために必要な改善措置を行うことをいいます。

◆改善対策

不具合が発生した場合に安全の確保及び環境の保全上看過できない状態であって、かつ、その原因が設計又は製作過程にあると認められるときに、自動車メーカー等が、必要な改善措置を行うことをいいます。

◆サービスキャンペーン

リコール届出や改善対策届出に該当しないような不具合で、商品性・品質の改善措置を行うことをいいます。

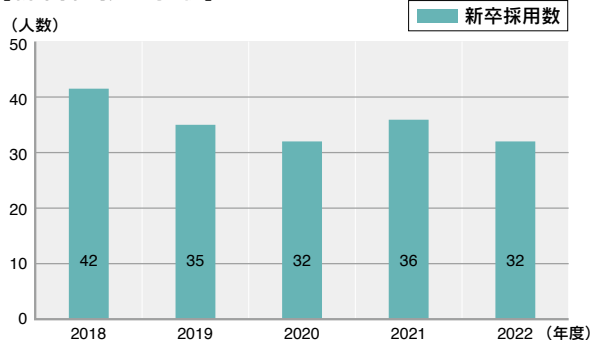
従業員

雇用促進

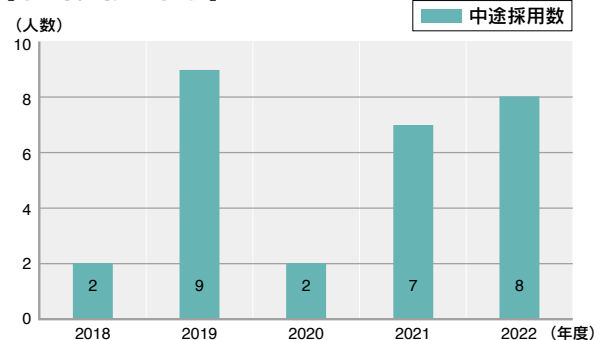
新規正社員雇用への取り組み

多様な人材を様々な年代・経歴から採用するため、新卒採用に加えて即戦力としての中途採用、そして期間従業員からの正社員登用を積極的に行っております。2022年度は大卒・高卒を含めた新卒採用で32名（女性7名含む）、中途採用で8名、期間従業員の正社員登用で13名の採用を行いました。

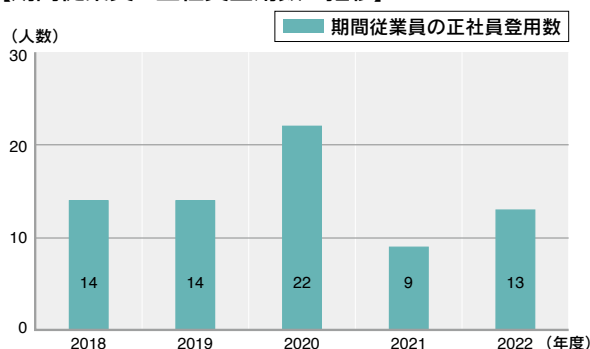
【新卒採用数の推移】



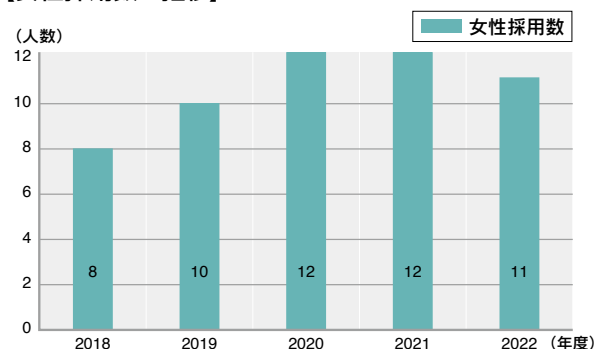
【中途採用数の推移】



【期間従業員の正社員登用数の推移】



【女性採用数の推移】



育児休暇の取得状況

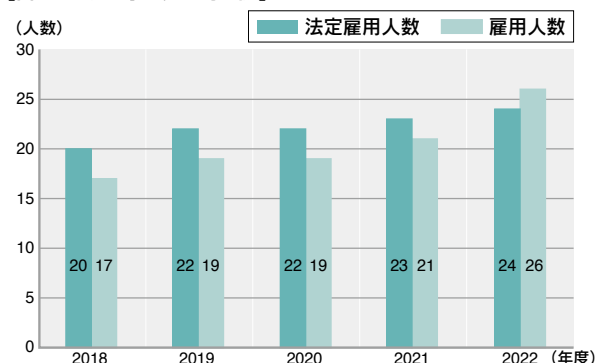
育児休暇の取得対象者45名に対して実際の取得者は14名でした。仕事と育児を両立して活躍できる職場づくりに向けて、より制度を利用しやすい職場環境づくりを進めていきます。

	人数
育児休暇を取得する権利を有していた従業員の総数	45名
育児休暇を取得した従業員の総数	14名

障害者雇用の状況

製造部門を中心に働きやすい環境整備を進め、積極的に障害者雇用を進めています。2022年度は障害者法定雇用人数24名に対して26名の雇用となっておりますが、これからも一人でも多くの雇用・定着に繋がるように社内改善を進めるとともに各種団体のご支援を受けながら、取り組みを進めていきます。

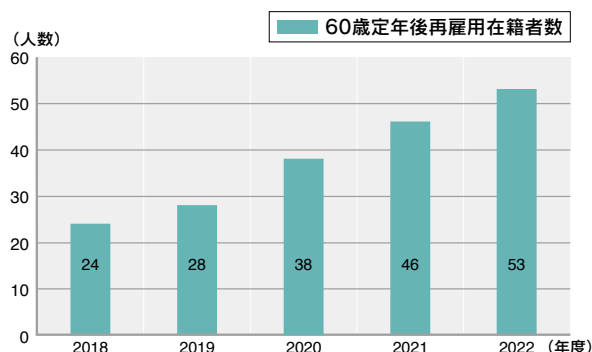
【障害者雇用人数の推移】



60歳定年後再雇用の状況

製造・設計・販売等の各段階で品質維持向上のため、技術に習熟し経験を積み重ねた従業員の確保が必要とされ、また一方で、60歳定年後もこれまで培った技術・経験を活かして働きたいという方にも安心して働ける職場の整備も必要となっています。当社では定年退職の再雇用に積極的に進めており、2022年度は53名を再雇用させていただいております。

【60歳定年後再雇用在籍者数の推移】



安全衛生・労使関係

安全衛生への取組み

当社は「安全は全てに優先する」を安全衛生基本理念に掲げ、総括安全衛生管理者をトップに、産業医と連携しながら「人への安全意識向上」「車両安全対策」「法令遵守」「快適職場環境づくりの推進」「心身の健康管理」「通勤災害の防止」などの観点から各種取組みを実施し、自主自立の安全文化構築を進めています。2022年度の災害発生件数は11件、度数率は3.16となりました。引き続きゼロ災害達成に向けて全社をあげて取り組んでいきます。

【2022年度の主な活動】

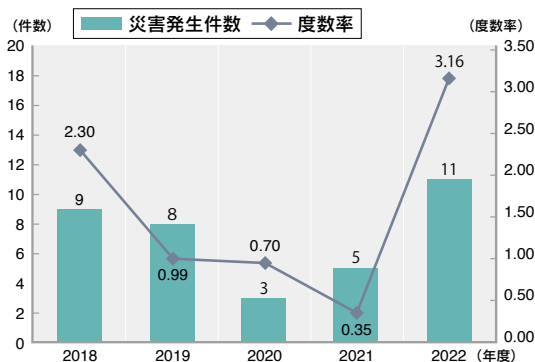
実施事項	
人への安全意識向上	危険撲滅やりきり活動の継続
	安全パトロール強化による安全感向上
	安全プロセスシート活用による自己診断と弱みの改善
	各職場での観察・対話型パトロールの実施
	安全人間づくり
車両安全対策	車両移動ルール確認
法令遵守	遵守状態の維持管理
快適職場づくりの推進	熱中症対策の実施
	溶接ヒュームの法改正対応
心身の健康管理	定期健康診断結果に基づく健康指導
	メンタルヘルス対策の推進
	健康知識の習得
通勤災害の防止	交通ルール順守徹底

安全衛生基本理念

「安全は全てに優先する」

- 安全なくして、企業の発展なし
- ルールを守らずして、安全なし
- プロとしての自覚なくして、安全なし

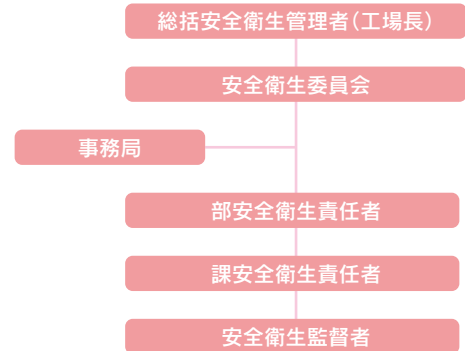
【災害発生件数と度数率】



安全衛生組織

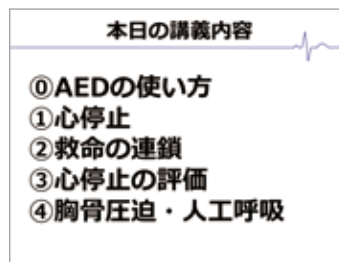
当社では安全衛生活動を円滑に推進するため、工場長を委員長として会社側従業員（※）、労働組合側従業員（※）、そして産業医を構成メンバーとした安全衛生委員会を本社工場および古河工場で毎月1回開催しております。尚、本社工場安全衛生委員会には各子会社代表者にも参加いただいています。

（※）会社側従業員と労働組合側従業員の人数は同数



安全衛生関係の講習会・講演会の実施

本社工場・古河工場・各営業所の各職場の管理監督者60名を対象にAEDの使い方および心臓マッサージの講習会を実施しました。今後も継続的に実施し、従業員の体調急変時にも冷静に対応できる人材育成を行っていきます。また、全国労働衛生週間行事の一環として当社産業医を講師として睡眠をテーマに講演会を開催し、良い睡眠による生活習慣病予防やこころの健康確保等についての理解を深める機会となりました。



労使関係

トランテックスとトランテックス労働組合は定例の労使会議を持ち、様々な検討を重ね、労働条件の改善に努めています。また、労働組合側からの職場環境改善要求を通じて一歩ずつ改善を進めています。

人材育成

人材育成の取組み

当社従業員の共通の価値観として「私たちの志（情熱・挑戦・思いやり）」と「私たちの実行（創意工夫・進化・結束）」を掲げ、従業員のスキルや能力の開発・向上のため階層別研修や専門教育を実施しています。これからも従業員一人ひとりがもつ能力を十分に発揮できるように、社内教育の改善・充実を行っていきます。

【トランテックス・スピリット】

私たちの志	私たちの実行
<p>情熱 出来ない言い訳はしない。課題・問題を解決するため、全力を尽くして取り組みます。</p> <p>挑戦 技能・能力を高めるため、自ら高い目標を掲げ挑戦します。</p> <p>思いやり 後工程やお客様に満足していただくため、常に細心の心配りをします。</p>	<p>創意工夫 品質向上のため、あらゆる知恵を絞り、スピード感を持って、自らが進んで改善を行います。</p> <p>進化 今日よりも明日、より成長するため、何事にも自ら進んで行動します。</p> <p>結束 組織力を高めるため、自ら進んで仲間と協力します。</p>

【階層別教育体系】

	事務職	技術職
部長クラス	部・次長クラス研修	
次長クラス	部・次長クラス研修	
課長クラス	課長クラス研修	
中堅クラス	係長・主任 クラス研修	新任工長研修
		新任職長研修
		新任指導員研修
		TPS研修
		QC研修
新入社員		TWI研修
		対話型巡視管理監督者研修
		新入社員研修

【2022年度に実施した主な階層別研修】

	内 容	受講者数
階層別研修	新入社員研修・フォローアップ研修	32名
	ハラスメント研修	151名
部門別研修	生産部門 工職長安全再教育	67名
	生産部門 新任職長研修	4名
	生産部門 新任指導員研修	9名
	生産部門 TWI研修	11名
	全部門 TPS研修	36名



環 境

環境マネジメント

環境基本方針

トランテックスは地球環境の保全を経営における最重要課題の1つであるとの認識のもと、2003年10月、企業理念に基づく「トランテックス地球環境憲章」を制定し、環境保全活動を積極的に進めています。

■基本方針

1. 地球環境の保全を総合的かつ長期的に進める

地球環境問題は、重要かつ深刻であるとともに、自動車は広い範囲でこの問題に関わっているとの認識のもとに、全社を挙げて、仕入先等の関係者とも協力して、開発から生産、販売、使用、廃棄に至る全ての段階における環境への影響を考慮した環境保全のための対策を、長期的視点に立って推進する。

2. 地球環境の保全を広い視野で身近な行動から進める

豊かで住みよい地球をめざして、事業活動の範囲内だけでなく、社会においては良き市民として、地域社会においては良き隣人として、環境保全のための行動を進める。

■行動指針

1. 環境負荷のより小さい事業活動をめざす

- 工場・事業所の立地における環境への配慮
- 地球環境にやさしいトラックボデーの開発
- 排出物を極力出さない生産活動
- 省エネルギーと省資源、リサイクルの推進

2. 関係者と協力しながら進める

仕入先、関係会社等と協力し、事業活動の様々な段階において、また、事業所の内と外とにおいて、環境保全に努める。

3. 社会への貢献を心がける

社会においては良き市民として、また、地域社会においては良き隣人として、社会や地域における環境保全の諸活動に協力する。

4. 自己啓発を図る

社会に対して開かれた企業として、また、企業人であるとともに良き市民として、地球環境問題に関して広く社会に学び、会社ならびに社員ともに自己啓発を図る。

環境方針

当社では基本理念、トランテックス地球環境憲章及びトランテックス地球環境行動計画等を受けて、環境に与える影響（著しい環境影響）、関連法規、利害関係者との関係等を配慮し、継続的改善及び汚染の予防のための基本方針（行動原則）として、環境方針を定めています。

トランテックスは、トラックボデーなどの開発・生産・販売・サービスを通じて、環境に与える影響を常に認識し、白山の豊かな自然や社会と調和する企業を目指して、全員参加で環境保全活動を推進します。

1. 私たちは、環境管理システムの効果的な運用と継続的改善をはかり、環境汚染の予防に努めます。
2. 私たちは、環境に関する法規制や私たちが守ると約束した協定・指針などを遵守し、社会とのつながりを大切にします。
3. 私たちは、環境への排出物や廃棄物を抑え、リサイクルを推進し、エネルギーや資源の効率的な利用を進めます。
4. 私たちは、環境に負荷を与える有害な物質の使用量を減らし、ライフサイクルを考慮した環境に優しい製品の開発を進め、提供します。

ISO14001認証取得

当社は本社工場、山島工場に加えて、2023年2月に古河工場も認証取得しました。

組 織 名 株式会社トランテックス

- 事業所名 本社及び工場（石川県白山市徳丸町670番地）／対象業務 トラック車体の開発・設計・製造
- 事業所名 山島工場（石川県白山市矢頃島町1025番地）／対象業務 完成車の出荷及び特装業務並びに事故車の修理点検
- 事業所名 古河工場（茨城県古河市名崎1番地）／対象業務 トラック車体の製造

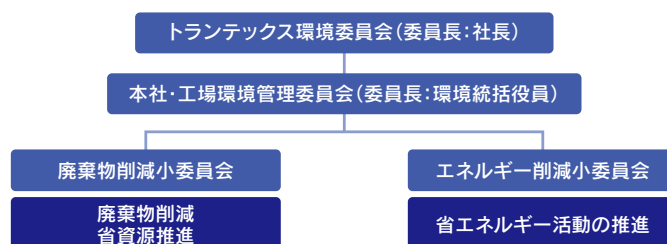
環境目標と実績

【2022年度環境活動実績】

項目	活動内容	活動実績		関連頁								
自然共生社会の構築 環境保全と	生産活動における環境負荷物質の低減 VOC排出量の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●塗装機器洗浄方法の見直しトライ ●塗料不具合改善による修正塗料低減トライ 		P20・23								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2022年度目標</th> <th>2022年度実績</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>VOC原単位 (g/m)</td> <td>77</td> <td>74</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	2022年度目標		2022年度実績	評価	VOC原単位 (g/m)	77	74	○		
項目	2022年度目標	2022年度実績	評価									
VOC原単位 (g/m)	77	74	○									
	自然共生社会構築に資する社会貢献活動の推進 社会貢献活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●本社工場周辺清掃活動や海岸清掃活動は実施を見送り 		—								
低炭素社会の構築	生産活動における省エネ活動の徹底と 温室効果ガス排出量の低減 生産CO ₂ の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●工場部門を中心とした生産性改善実施 ●エア漏れ点検 		P20・23								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2022年度目標</th> <th>2022年度実績</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生産CO₂原単位 (CO₂-ton/台)</td> <td>0.288</td> <td>0.211</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	2022年度目標		2022年度実績	評価	生産CO ₂ 原単位 (CO ₂ -ton/台)	0.288	0.211	○		
項目	2022年度目標	2022年度実績	評価									
生産CO ₂ 原単位 (CO ₂ -ton/台)	0.288	0.211	○									
	物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減 物流CO ₂ の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●一部区間での高速道路利用による効率的な完成車輸送 ●部品輸送時の積載効率改善による便数低減 		P20								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2022年度目標</th> <th>2022年度実績</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>物流CO₂原単位 (CO₂-千ton/トンキ口)</td> <td>0.0921</td> <td>0.08939</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	2022年度目標	2022年度実績		評価	物流CO ₂ 原単位 (CO ₂ -千ton/トンキ口)	0.0921	0.08939	○			
項目	2022年度目標	2022年度実績	評価									
物流CO ₂ 原単位 (CO ₂ -千ton/トンキ口)	0.0921	0.08939	○									
循環型社会の構築	生産・物流における廃棄物の低減と資源の有効利用 廃棄物の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●歩留り改善実施 ●逆有償アイテムの有償処理化の目途付け 		P20・22								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2022年度目標</th> <th>2022年度実績</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃棄物CO₂原単位 (ton/台)</td> <td>0.0898</td> <td>0.0864</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	2022年度目標		2022年度実績	評価	廃棄物CO ₂ 原単位 (ton/台)	0.0898	0.0864	○		
	項目	2022年度目標	2022年度実績		評価							
廃棄物CO ₂ 原単位 (ton/台)	0.0898	0.0864	○									
物流梱包包装材の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●同一行き先同梱包による梱包材低減 											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2022年度目標</th> <th>2022年度実績</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>梱包材原単位 (ton/百万円)</td> <td>0.0313</td> <td>0.0313</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	2022年度目標	2022年度実績	評価	梱包材原単位 (ton/百万円)	0.0313	0.0313	○				
項目	2022年度目標	2022年度実績	評価									
梱包材原単位 (ton/百万円)	0.0313	0.0313	○									
水使用量の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●埋設配管の漏水箇所修繕 											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>2022年度目標</th> <th>2022年度実績</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水使用量原単位 (ton/台)</td> <td>13.9</td> <td>18.6</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	項目	2022年度目標	2022年度実績	評価	水使用量原単位 (ton/台)	13.9	18.6	○				
項目	2022年度目標	2022年度実績	評価									
水使用量原単位 (ton/台)	13.9	18.6	○									
環境経営	環境教育活動の充実と推進	<ul style="list-style-type: none"> ●各部署での教育実施 		P19								
	環境情報の積極的な開示とコミュニケーションの充実	<ul style="list-style-type: none"> ●CSRレポート発行 ●近隣町内会役員の方を交えての地域懇談会実施 ●工場見学の受入れを再開 		P24								
	異常苦情ゼロ・リスクの最小化	<ul style="list-style-type: none"> ●環境管理者による定期パトロール 		—								
	環境マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ●環境監査実施 ●環境コスト把握 ●PCB廃棄物の適正処理 ●地下水保全 		P18・19								

マネジメント推進体制

トランテックスは環境保全を推進するため、全社的組織として社長を委員長とする「トランテックス環境委員会」を設置し、基本方針の決定と諸活動の総合推進を図っています。また、下部組織として本社・工場環境管理委員会と3つの専門委員会を設置し、本社・工場環境管理委員会は、原則毎月開催とし各種課題の進捗管理・検討・審議等を行っております。また、2つの専門委員会は、事業活動による環境負荷の低減として大きな課題であるCO₂低減・VOCなどの化学物質低減・廃棄物低減などの個別の専門テーマに対して、部門横断的な視点からアプローチをしております。



環境会計

環境保全コストおよび効果を定量的に把握し、環境保全活動に効果的かつ継続的に取り組むため、環境会計に取り組んでいます。尚、環境保全コストは①投資額は対象期間の投資のみとする②経費の中に減価償却分は含めない③環境保全以外の目的を含んでいる設備投資や費用については、環境対応分が明確に把握できるもののみ計上することとしました。環境保全対策にともなう経済効果については、把握可能な項目のみ集計しました。

【環境保全コストの集計結果】

[単位:百万円]

		2020年度		2021年度		2022年度	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
事業エリア内コスト	公害防止コスト	31.7	8.2	14.9	11.0	29.8	12
	地球環境保全コスト	13.5	-	81.8	-	-	-
	資源循環コスト	4.1	91.2	2.9	83.8	-	71.2
	計	49.3	99.4	99.6	94.8	29.8	83.2
上・下流コスト		-	2.2	-	0.3	-	-
管理活動コスト	EMSの整備、運用	-	0.8	-	0.9	-	1.6
	環境情報の開示・広告	-	0.3	-	0.3	-	0.2
	環境測定	-	3.8	-	3.7	-	3.2
	従業員の教育	-	-	-	-	-	-
	景観保持	-	-	-	-	-	-
研究開発コスト		-	12.6	-	3.0	-	-
社会活動コスト		-	-	-	-	-	-
環境損傷対応コスト		-	-	-	-	-	-
合計		49.3	119.1	99.6	103.0	29.8	88.2

【経済効果の集計結果】

[単位:百万円(-は十万円未満)]

経済効果	2020年度	2021年度	2022年度
リサイクルによる事業収入	87.1	201.1	159.3
省エネルギーによるエネルギー費の節減	0.1	0.0	0.3
省資源又はリサイクルに伴う廃棄物処理費の削減	4.5	7.4	13.7

【環境保全効果の集計結果】

物流効果	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素 (t-CO ₂)	392.3	3277.2	-
廃棄物総排出量低減 (t)	462.0	167.7	906.7
PRTR対象物質排出量・移動量削減 (t)	-	4.9	14.4

環境監査

環境マネジメントシステムの適合性・有効性を客観的に評価するため環境内部監査を行い、外部審査機関による審査を受審しています。また、両監査で取り上げられた内容はマネジメントシステム改善に活用しています。



内部監査の様子

環境教育・訓練

環境教育として各所属長を対象とした管理者研修、各職場単位での研修、新入社員研修を行っています。また、環境事故は環境汚染につながるだけでなく、近隣住民の方々や生産活動にも大きな影響を及ぼす可能性があることを再確認するため、各職場単位で毎年、緊急時対応訓練を実施しています。

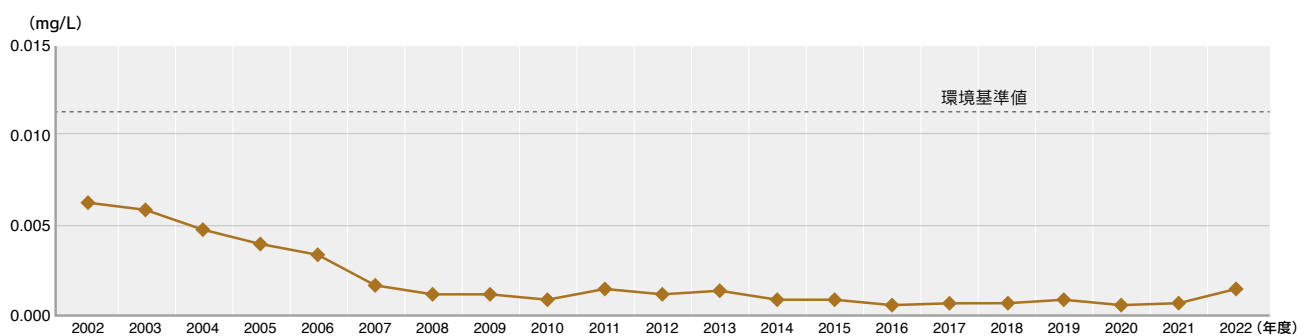


PCB廃棄物の保管と処理

社内で保管していたPCB含有廃棄物は、2023年3月末までに、国の認定を受けた処理施設で適正に処理を完了しました。

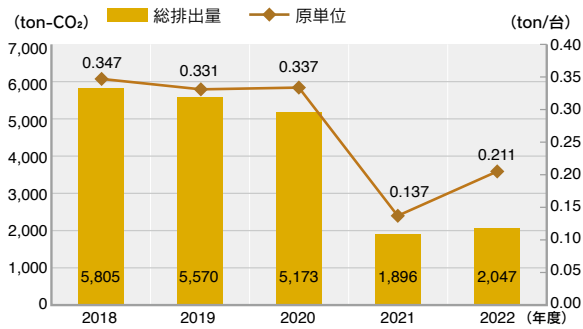
地下水保全への取り組み

当社では過去に有機塩素系化合物であるテトラクロロエチレンを使用しており、1996年に使用を全廃しましたが1998年に本社・工場敷地内の1ヶ所で環境基準を上回るレベルが確認されました。1998年以降行政指導の下、積極的に浄化対策を進めており、土壌内の汚染ガスの吸引及び地下水揚水による浄化対策の結果、濃度は低位で安定しております。

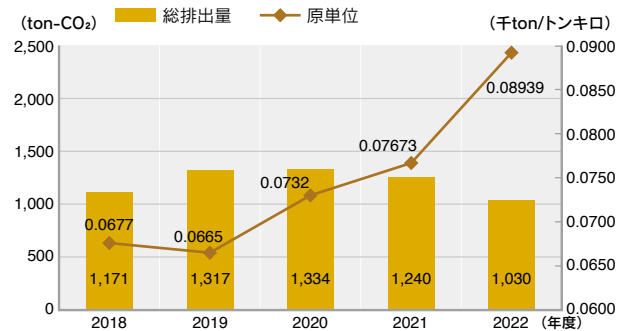


環境パフォーマンスデータ

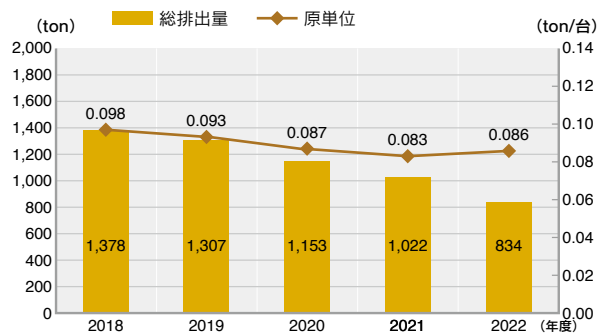
【生産CO₂】



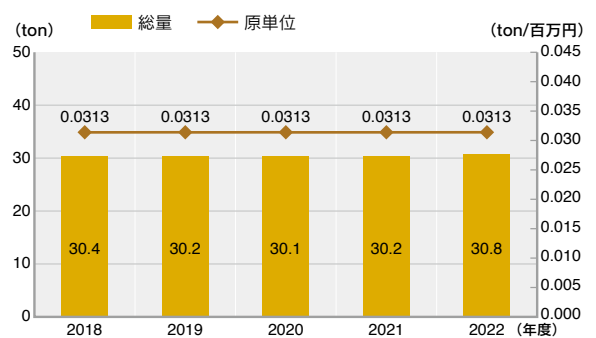
【物流CO₂】



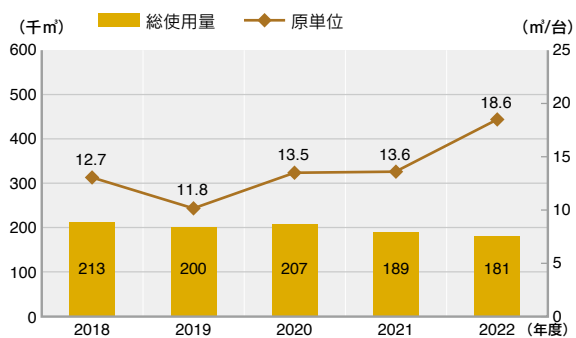
【廃棄物】※2



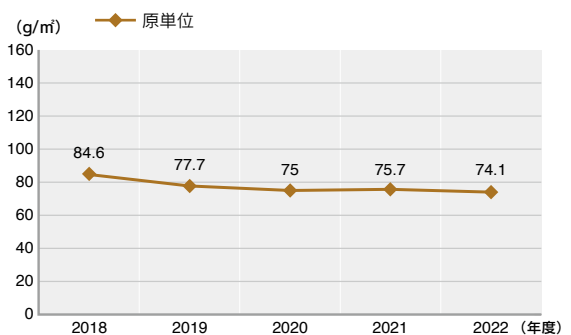
【物流梱包包装資材】



【水使用量】



【VOC】※3



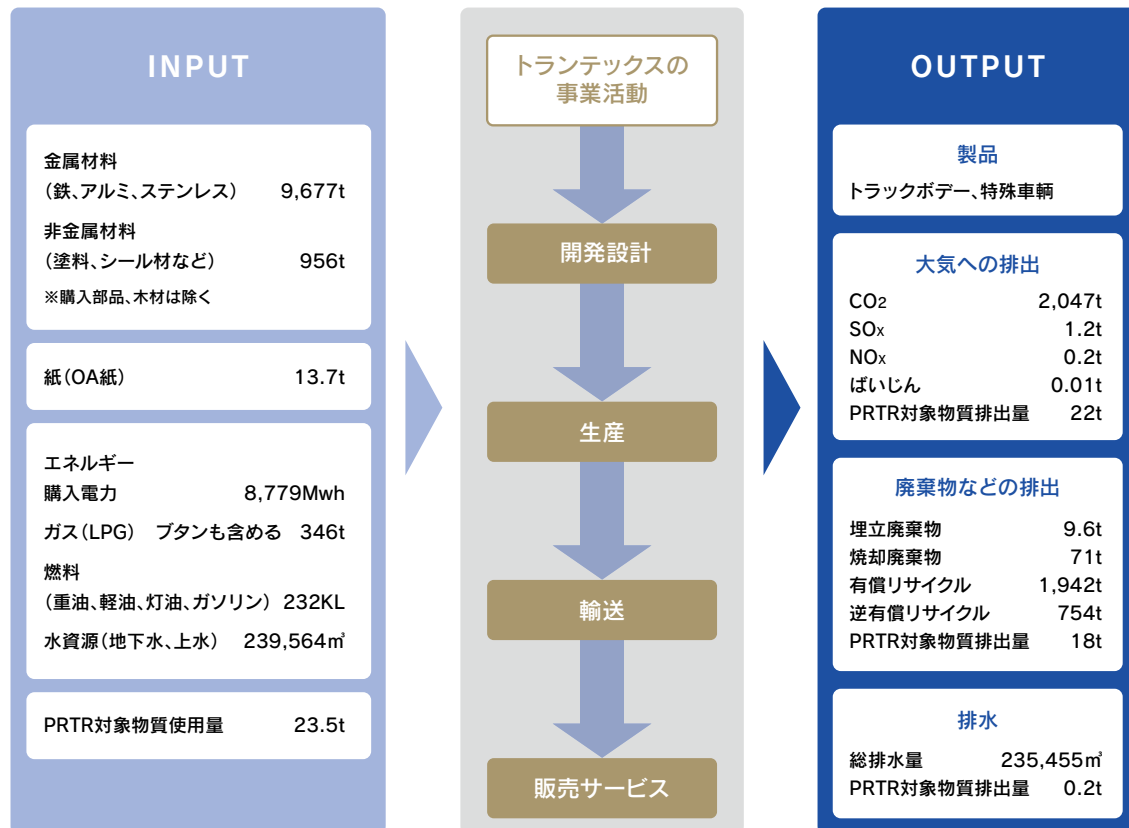
- (*1) 排出物=有償リサイクル+逆有償リサイクル+焼却+埋立
- (*2) 廃棄物=逆有償リサイクル+焼却+埋立
- (*3) VOC(Volatile Organic Compounds): 揮発性有機化合物

事業活動と環境影響

事業活動と環境影響

事業活動における投入資源（インプット）と排出による環境負荷（アウトプット）を定量化し、環境への影響を把握して、環境負荷低減活動に活用しています。

【事業活動における2022年度の投入資源と環境への排出】

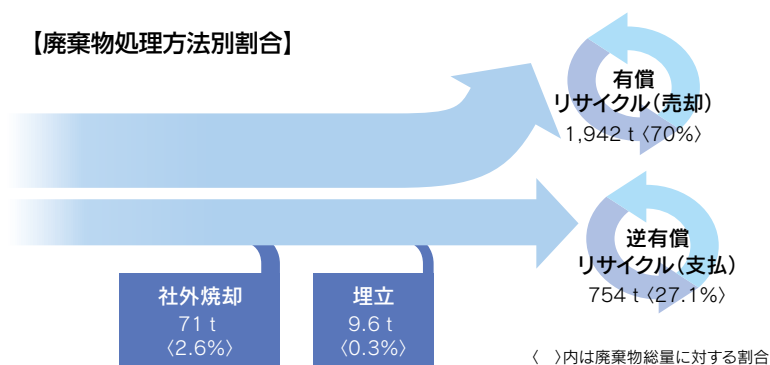


PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) : 有害化学物質排出・移動登録制度
SO_x : 硫黄酸化物 NO_x : 窒素酸化物

廃棄物の処理方法種類と重量

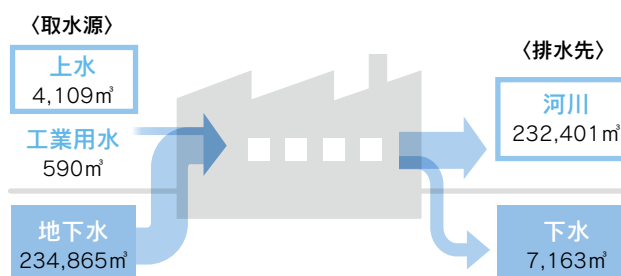
工場内で発生する廃棄物については限りある資源を有効活用していく観点から地道な活動を通して焼却処理や埋立処理からリサイクル処理へのシフトを進めています。

【廃棄物処理方法別割合】



水源別取水量と排水先

工場内で使用される水は主に塗装工程や検査工程で使用されており、地下水や工業用水でまかなっています。使用後は廃水処理設備で適正な水質に戻してから河川放流しており、定期的に外部の専門業者に依頼して水質検査を行い異常がないことを確認しています。

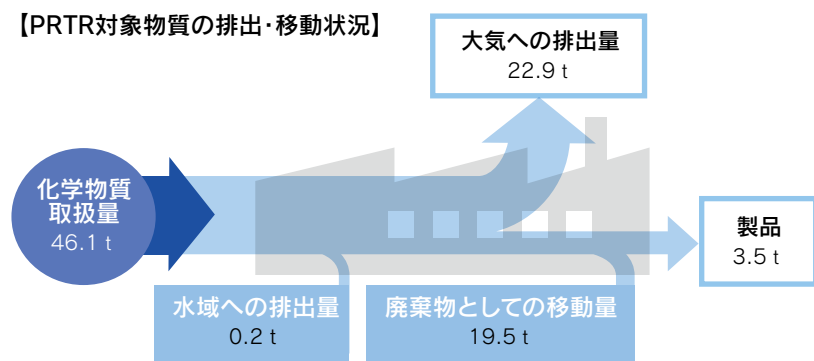


項目	法基準値	2022年度測定値 (年間最高値)
PH	5.8以上8.6以下	6.5-6.8
BOD	30mg/L以下	7mg/L
COD	-	31mg/L
SS	110mg/L以下	2mg/L未満
n-ヘキサン動植物油	30mg/L以下	1mg/L未満
n-ヘキサン鉛油類	5mg/L以下	1mg/L未満
亜鉛	2mg/L以下	1.1mg/L
溶解性マンガン	10mg/L以下	2.2mg/L
鉛	0.1mg/L以下	0.01mg/L未満
六価クロム	0.5mg/L以下	0.05mg/L未満
フッ素	8mg/L以下	0.3mg/L
アンモニア・アンモニウム化合物 亜硝酸化合物および硝酸	100mg/L以下	9.0mg/L

大気・水質への化学物質の影響

当社では生産工程での塗料や接着等の使用により大気・水質に影響を与える化学物質を取り扱っています。自主的な活動はもちろん、各サプライヤー様と協力しながら、取扱量を減らす努力を続けていきます。

【PRTR対象物質の排出・移動状況】



温室効果ガス使用量 (kg)	
HFC125	413.6
HFC134a	528.8
HFC143a	37.6

(*) 4重金属を含む11禁止物質
鉛 (Pb)
水銀 (Hg)
カドミウム (Cd)
六価クロム (Cr+6)
アスベスト
PBB (ポリ臭素化ビフェニル)
PBDE (ポリ臭素化ジフェニルエーテル)
デカBDE (デカ臭素化ジフェニルエーテル)
HBCD (ヘキサブロモシクロデカン)
PFOS (パーフルオロオクタンスルホン酸)
DMF (フマル酸ジメチル)

環境負荷物質(SOC)(*)使用禁止の取組み

当社は2008年生産分から商品に含まれる環境負荷物質全廃(*)を行い、現在は購入する材料・部品の環境負荷物質の有無を事前に確認する体制をとっています。(お客様指定品や一部機器は除きます。)

エコ電力導入

本社工場は2021年度に引き続き2022年度も再生可能エネルギー 100%由来の電力導入をしました。また、古河工場も2022年度はグリーン電力証書を利用した電力導入をしました(*)。これにより2022年度はトランテックスの工場生産から排出する電気由来のCO₂はゼロとなりましたが、限りある資源・エネルギーの使用を少しでも減らすため、これからも使用電力量の削減を続けていきます。

* 古河工場は日野自動車古河工場の電力を利用しており、日野自動車古河工場が2022年4月よりグリーン電力証書の購入を開始

調 達

基本的な考え方

当社は当社の製品が業界トップの位置を確保できるよう、仕入先の皆様と協力して、ともに発展していくことをめざしています。仕入様には、コスト・品質・納期の最高レベル実現に向けた調達方針を提示するとともに公正な取引の維持を心がけています。

仕入先様との交流

当社では毎月、仕入様と仕入先会議を開催し、生産計画の情報提供を定期的に行っています。その他、工場内および周辺での交通ルールの遵守やマナー向上の呼びかけなど、地域社会との共生に係わることについても展開を行っています。

また、毎年1回、仕入先総会を開催し、当社の年度方針・調達方針を共有しています。また年間を通じて原価改善活動や品質管理活動にご功績のあった仕入先様を表彰させていただいております。

(2022年度は仕入先総会の開催を中止とさせていただきました。)

調達方針

当社の商品が、最高の価格競争力を確保できるように、広く世界に門戸を開き、最適な仕入先を選定することにより、

1. ミニマムな価格
2. 最高の品質
3. タイムリーな納期

を実現し、商品の拡販と当社の収益拡大に貢献する。

社会貢献活動

定期的なボランティア活動や近隣の方々との交流を通じて、地域に貢献し、地域に密着した企業を目指していきます。

コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止していた、地域懇談会、会社見学の受入れ、工場周辺清掃活動については再開させていただきました。



地域懇談会



清掃活動

コンプライアンス

当社ではコンプライアンスの実践を経営の重要課題の1つと考えており、全社的なコンプライアンス風土醸成に向けた取組みを継続的に実施し、あらゆる場面で公正な判断・活動ができる企業集団を目指しています。

「トランテックス行動指針」

「トランテックス行動指針」は、基本理念の内容を受けて、各ステークホルダーの皆様の期待に応えるために「社員一人ひとりがどう行動すべきなのか」を具体的に明記した内容となっております。

私たちは、この「トランテックス行動指針」を日々の業務の手引書として活用し、また合わせてコンプライアンスガイドブックを活用することで、法令順守を徹底していきます。そして、各ステークホルダーの皆様の期待にお応えしたいと考えています。



コンプライアンス教育

定期的なコンプライアンス教育を行い、問題発生 of 未然防止とルールを守る職場風土づくりをしています。また取り扱う題材は業務に関連が深いものや、近時のトピックスを中心とするように工夫し、コンプライアンス問題未然防止に向けたレベルアップを図っています。

対 象	内 容
役員・管理職	管理職のコンプライアンス
管理職	管理者向け情報セキュリティ
全従業員	情報セキュリティ、ハラスメントなど
営業担当者	下請法、贈収賄防止など
サービス担当者	下請法、贈収賄防止など

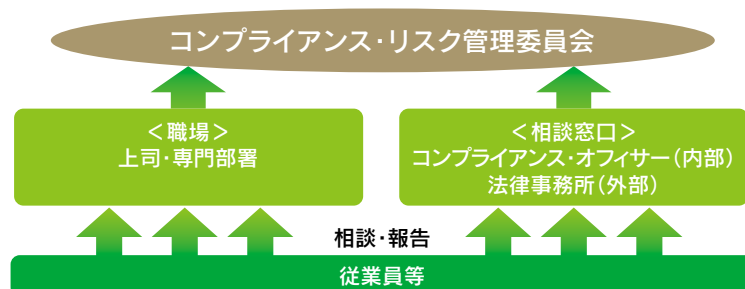


各職場単位で全従業員を対象に教育を実施

コンプライアンス相談窓口

従業員がコンプライアンスに関する問題に遭遇した場合、職場を補完する相談先としてコンプライアンスオフィサーを設置し、社内への周知を図っています。従業員は直通の電話またはE-mailにてコンプライアンスオフィサーに直接相談・報告することができます。また、日野グループとして、外部の法律事務所への相談窓口も設けています。

【参考：従業員の相談・報告ルート】



コーポレートガバナンス

当社は基本理念に基づき、各ステークホルダーの皆さまの期待と信頼に応えるため、コーポレートガバナンスの強化を経営の最重要課題の1つと考えております。具体的には経営の透明性を確保するため、株主総会・取締役会・監査役協議会・会計監査人等の機関設置を行い、また迅速な環境変化への対応と意思決定を図るため、経営判断に基づく業務執行レベルの判断を行う執行役員会を毎週開催するなどの体制を構築しております。

取締役会

会社法で定める重要事項や経営に係わる重要事項の審議決定機関として、原則毎月1回開催しています。また、取締役の任期は、経営責任を明確にするため1年とし、非常勤取締役を1名選任しております。

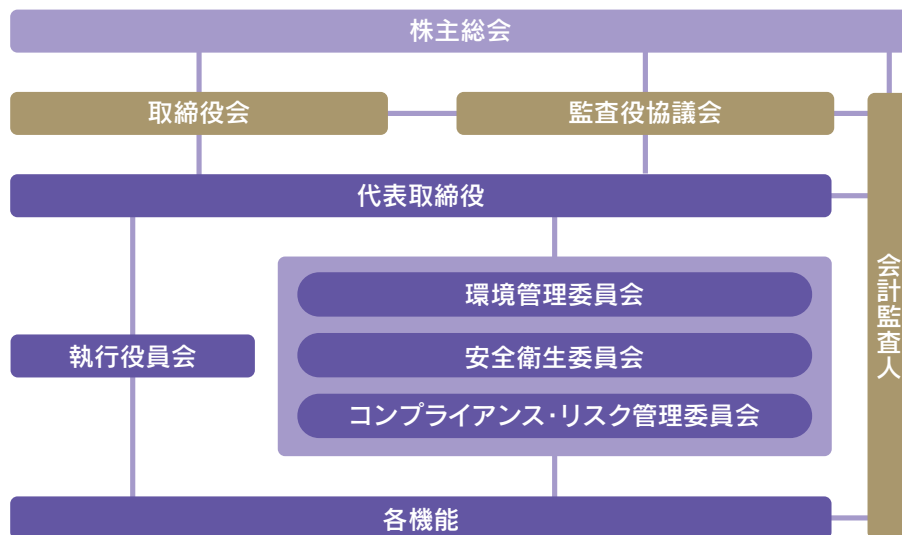
監査役協議会

取締役会の監督機能をより強化するため、常勤監査役以外に2名の非常勤監査役を選任しております。

会計監査人

2022年度はPwCあらた有限責任監査法人を選任いたしました。

【コーポレートガバナンス体制図】



編集にあたって

本レポートは、当社を取り巻くステークホルダーの皆様にご覧いただき、当社の活動を深く理解していただき、さらなる信頼をいただくことを目的としています。お読みいただいた皆様とのコミュニケーションツールとして、わかりやすく表現するよう心がけました。

対象範囲・対象期間

原則として2022年度（2022年4月～2023年3月）の実績や取り組みを対象としております。但し、一部の内容については、本レポート発行直前までの活動も記載しています。

参考ガイドライン

- ・環境省「環境省ガイドライン（2018年度版）」
- ・GRIスタンダード（Global Reporting Initiative）



Corporate Social Responsibility Report 2023

本報告書の内容や当社の環境への取り組みなどについて、ご意見、ご質問などがございましたら、下記までお問合せください。

株式会社 **トランテックス** 総務・人事部

〒924-8580 石川県白山市徳丸町670番地
TEL(076)274-2806 FAX(076)274-8191

ホームページアドレス <http://www.trantechs.co.jp/>

発行日 2023年12月

※この報告書はトランテックスホームページ上でもご覧いただけます。



古紙配合率100%再生紙を使用しています

